

連結器の取付

- 連結器を取り付ける際、軸に衝撃力や過大なスラスト荷重をかけないでください。軸受に損傷が生じるおそれがあります。
- 焼バメまたは軸端ねじを利用した取り付け(図 J11)を推奨します。

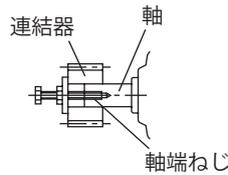


図 J11

1. カップリングを使用する場合

図 J12 の寸法 (A, B, X) は表 J12 の精度以下にしてください。

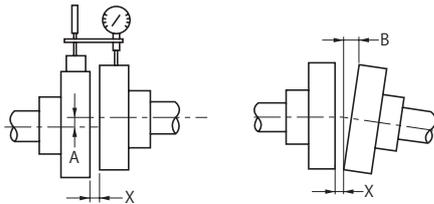


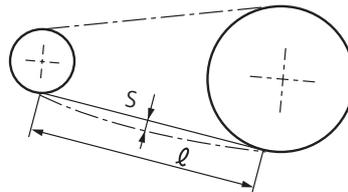
図 J12

表 J12 フレキシブルカップリングの心出し精度

A 寸法許容誤差	0.1mm または メーカー指定値
B 寸法許容誤差	0.1mm または メーカー指定値
X 寸法	メーカー指定値

2. チェーン・スプロケット、ギヤを使用する場合

- チェーン式の場合はチェーンの張り角度が、軸と直角になるように取り付けてください。
- チェーンの張りについて
チェーンの場合は、弛み量に注意してください。チェーンの弛み量が大きい場合、始動時、負荷変動などの時に大きな衝撃力が発生し、減速機や相手機械に悪い影響をおよぼしますので、通常の場合、スパンの 2% 前後にしてください。(図 J13 参照)



$$S \approx 0.02 l$$

S = チェーンの弛み量
l = スパン

図 J13

- チェーンのレイアウトについて
チェーンの軸位置は、任意にレイアウトしても差支えありませんが、水平の場合、上部を緊張側とし、垂直伝動はなるべく避け、やむを得ない場合は回転方向を問わず、大スプロケットを下側位置にレイアウトすることが望ましい。(図 J14 参照)

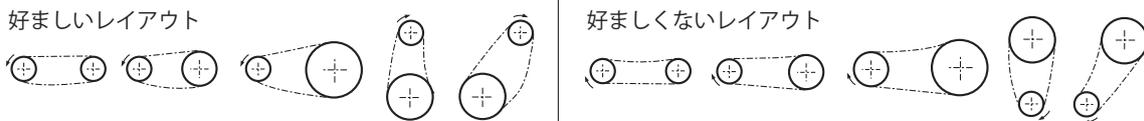


図 J14

- スプロケットやギヤのピッチ円径は軸径の 3 倍以上となるように選定してください。
- スプロケットやギヤの荷重作用点が軸中央よりギヤモータ側へくるようにしてください。(図 J15 参照)

3. V ベルトを使用する場合

- V ベルトを張りすぎると軸や軸受を損傷します。張り量についてはご使用の V ベルトカタログなどをご参照ください。
- 両プーリ間の平行度、偏心度は $\beta = 20'$ 以内としてください。(図 J16 参照)
- 複数本の V ベルト掛けには周長の同じマッチドセットをご使用ください。

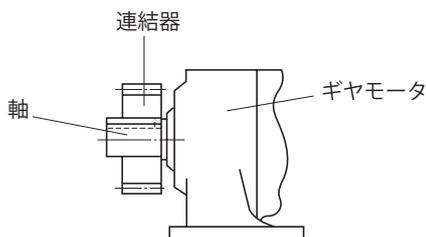


図 J15

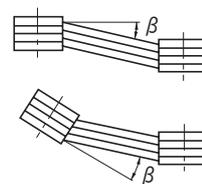


図 J16